
透析を拒否する患者への維持透析継続と意欲回復への支援～「病みの軌跡」を通じたアプローチ

医療法人衆和会 長崎腎病院

○高橋沙織 丸田麻莉絵 山中真樹子 丸山祐子 船越 哲

【はじめに】

透析導入となった患者の生活スタイルは大きく変化し、継続的な指導や精神的支援が必要となる。更に、生活スタイルが確立した患者に長期入院が強いられた時、患者・医療者間で方針の相違が生じる場合がある。今回、「病みの軌跡」を通して、透析拒否をしていた患者を維持透析・意欲回復へつなげる事が出来た症例を報告する

【症例】

60代男性、独身、博識で明るい性格、高齢の母と二人暮らし、隣に住む姉は協力的である。2型糖尿病歴は32年、透析歴14年であるが、血糖コントロールは不良で、重度の糖尿病性網膜症を有し、労作性狭心症による急変のリスクを理解している。抑うつ傾向もなく、人生を達観している様子で、不摂生な生活は続き、ブラッドアクセス作成困難で長期入院に至った後、不満やストレスを訴え透析拒否、帰宅願望が強くなった。

【結果】

患者とともに「病みの軌跡」を振り返り、得た情報を家族、医療チームで共有・連携を図り一時的な自宅退院となった。患者からは「気持ちを理解してもらえたことが嬉しい、ストレスから解放された環境で過ごせた」との言葉が得られ、透析の継続に繋がった。

【考察】

十分な自己決定能力を有する患者が透析の継続を望まない場合、中止(discontinuation)の議論をする前に、患者・家族・医療者で「病みの軌跡」を十分に協議し「折り合いをつける」事はひとつの選択肢と考える。